

LB PCの操作をシッカリ記録 アクセスログ2

EsCOMPUTER

販売元： 株式会社ライフポート

開発元： 株式会社エスコンピュータ

利用ガイド



LIFEBOAT
a megasoft company

LB アクセスログ2 利用ガイド

『LB アクセスログ2』のプログラムと利用ガイドは、著作権法で保護された著作物であり、その全部あるいは一部を株式会社ライフボートの事前の明示的な許可なく複製したり、転送したり、格納したり、他のコンピュータ用に変換したり、あるいは他の言語に翻訳したりすると、著作権の侵害になります。

『LB アクセスログ2』は、株式会社ライフボートの商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

注意

この利用ガイドに記載されている情報は、予告無しに変更されることがあります。

株式会社ライフボートは、本利用ガイドあるいはプログラムに記載されている内容に対していかなる誤りが含まれる場合にも、一切の保証を行いません。

EDITION

September 2017

Copyright© 2017 by Lifeboat, inc.

All rights reserved.

Printed in Japan

PUBLISHED BY

株式会社ライフボート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

ホームページ: <http://www.lifeboat.jp/>

目 次

第 1 章	LB アクセスログ 2 の概要	5
第 1 節	LB アクセスログ 2 について	5
第 2 節	LB アクセスログ 2 の機能	5
第 3 節	動作環境	5
第 4 節	注意事項	6
第 2 章	インストール	7
第 1 節	インストール	7
第 2 節	アンインストール	13
第 3 章	初期設定とリアルタイムモニタの起動	15
第 1 節	初期設定	15
第 2 節	リアルタイムモニタの起動	17
第 4 章	ログの管理	19
第 1 節	ログの保存先	19
第 2 節	ログの内容	21
第 3 節	ログファイルの暗号化	23
第 5 章	LB アクセスログ 2 の設定	25
第 1 節	全般	25
第 2 節	共通設定オプション	26
第 3 節	ログファイル	27
第 4 節	自動コピー	29
第 5 節	リアルタイムモニタ	30
第 6 節	ログ設定	31
第 7 節	設定のエクスポートとインポート	33

第 6 章	ログ設定の詳細	35
第 1 節	ログオンとログオフ	35
第 2 節	ハードウェアの追加と削除	37
第 3 節	ファイルアクセス	39
第 4 節	インターネットアドレス	44
第 5 節	キーボード	46
第 6 節	ウィンドウ	47
第 7 節	プロセス	48
第 8 節	ファイル操作	49
第 9 節	印刷	51
第 10 節	Web アップロード	52

第1章 LB アクセスログ2の概要

第1節 LB アクセスログ2について

『LB アクセスログ2』は、PCの操作に関する様々なログを簡単に、しかも確実に記録できるユーティリティソフトです。収集したログファイルを暗号化して保存したり、ネットワーク上のサーバーに自動的に転送したりすることも可能です。

第2節 LB アクセスログ2の機能

- PCの操作状況を記録（ログオンとログオフ、ハードウェアの追加と削除、ファイルアクセス、ファイル操作、インターネットアクセス、キーボード、ウィンドウ、プロセス、印刷、Webアップロードに関するイベント）
- リアルタイムモニタ（ログに記録される内容をリアルタイムで画面表示）
- ログの暗号化とオプション
- CSV形式によるログの保存を選択可能
- フィルタ機能によるログのカスタマイズ
- ユーザー単位のログ管理
- ログの自動転送機能
- ログの改ざん防止と、パスワードによる不正な設定変更からの保護
- ログの保存先を任意のドライブ（ローカル/ネットワーク）、フォルダーに指定可能
- 設定情報を他のPCへエクスポートする機能を装備

第3節 動作環境

<本ソフトのご使用に必要なシステム>

- 対応OS: 日本語 Windows 10/8.1/8/7/Vista(32/64ビット)
- 対応機種: 上記OSが稼働する各社DOS/V機 (Macintoshでは動作しません)
- 対応CPU: 1GHz以上のインテルPentium互換CPU
- ハードディスクの空き容量: 20MB以上 (ログ保存用のディスクスペースが別途必要)
- 必要メモリ: 1GB以上
- その他に必要な環境: CD-ROMドライブ (インストール時)

第4節 注意事項

<他のモニタリングツールとの併用について>

他社製ログ収集ツール、資産管理ツール、弊社製品USB HardLockerシリーズと本ソフトウェアを併用することはできません。

<キーボード入力について>

本製品にはキー入力の全てを記録する機能があります。この機能を有効にして「キーの内容を表示する」をチェックしている場合は、入力したパスワード等の重要な情報をそのままログに残すことになります。パスワード入力をする可能性がある場合、「キーボード」設定の内容を十分確認してから運用していただくようご注意ください。

<ログの保存先をネットワーク上に設定する場合>

ログの保存先をネットワーク上に設定する場合は、「自動コピー」機能を利用することをお勧めします。ネットワーク切断時のログの保存漏れを回避することができます。

<ログフィルタの利用について>

PCの動作を監視するツール(ウイルス対策ツールのリアルタイム監視機能等)やOSのシステムプロセス等をログの記録対象にすると、ユーザーの操作とは無関係なファイルアクセスが記録され、ログサイズが肥大化します。予めフィルタを設定して、これらのプロセスやファイルアクセスをログの記録対象から除外しておくことをお勧めします。

<ログファイルの保護について>

記録中のログファイルはロックされており、編集したり削除したりすることはできませんが、記録終了後のログファイルについては編集、削除が可能です。ログファイルへの不正アクセスを防ぐために、暗号化オプションを選択するか、自動コピー機能を利用して記録後のログを移動することをお勧めします。

<ご利用上の注意点>

本ソフトウェアを使用して不正に情報を収集し利用することは処罰の対象となる可能性があります。運用方法を十分注意の上ご使用ください。

<パスワードの管理について>

本製品では、ユーティリティ、リアルタイムモニタの起動の保護、アンインストールおよびログの暗号化にパスワードを設定可能ですが、パスワードはユーザー様の自己責任で厳重に管理してください。パスワードの紛失に関するサポートは一切ご提供できません。

第2章 インストール

第1節 インストール

インストールするにはライセンスキーが必要です
(ライセンスキーはパッケージ製品の場合、同梱された「お客様控え」に記載されています。ダウンロード版は購入後に配信されるメールをご覧ください。)

※ インストールは必ず管理者権限で Windows にログオンしてから実行してください。

- 『LB アクセスログ2』のCD-ROMをドライブにセットすると、インストールのためのメニューが起動します。自動的に起動しない場合は、エクスプローラからCD-ROMの内容を表示して「スタート.exe」を実行してください。


ディスクに対する操作から「スタート.exe」の実行を選択します。

DVD RW ドライブ (D:) LB アクセスログ2
タップして、このディスク に対して行う操作を選んでください。


DVD/CD-RW ドライブ (D:) LB...

このディスク に対して行う操作を選んでください。

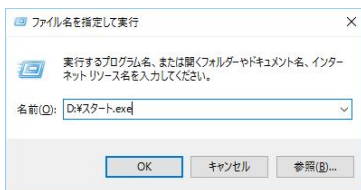
メディアからのプログラムのインストール/実行

 スタート.EXE の実行
LIFEBOAT,INC. により発行

その他の選択肢

 フォルダを開いてファイルを表示
エクスプローラ

 何もしない



自動再生のメニューが表示されない場合は、ディスクを参照して「スタート.exe」を実行します。

2. インストール用のメニュー画面が起動します。インストールをクリックすると、プログラムのインストーラが起動します。



<メニューの説明>

はじめにお読みください	readme.txt を開きます。インストールを開始する前に、必ずお読みください。
インストール	インストーラを起動してプログラムのインストールを開始します。
利用ガイド	今ご覧いただいているドキュメント『LB アクセスログ2 利用ガイド』(PDF)を開きます。
ユーザー登録	ライフボートのホームページに接続してユーザー登録を開始できます。
サポート	サポートセンターの利用方法や関連情報へのリンクを表示します(次のページを参照)。
終了	メニュー画面を終了します。

「サポート」を選択すると以下のページが表示されます。

LB PCの操作をシッカリ記録 **アクセスログ2** **LIFEBOAT**
a megasoft company

サポート情報を表示
サポートセンターご利用の手引き
最新情報
Adobe Readerの入手

メニューボタンから項目を選んでクリックしてください。

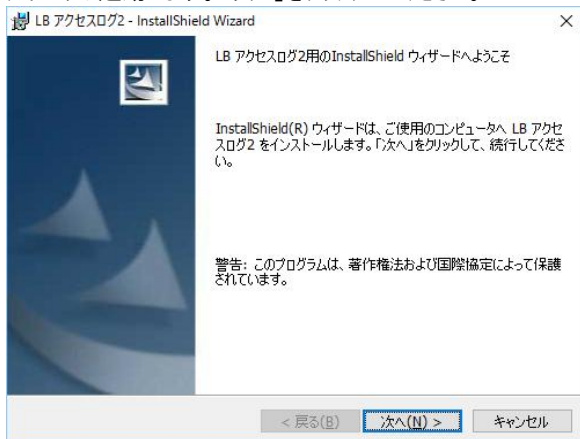
株式会社ライフボート
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-2-34
TEL: 03-3265-1250 FAX: 03-3265-1251
ライフボートサポートセンター
TEL: 03-3265-1260

終了 戻る **株式会社 ライフボート**

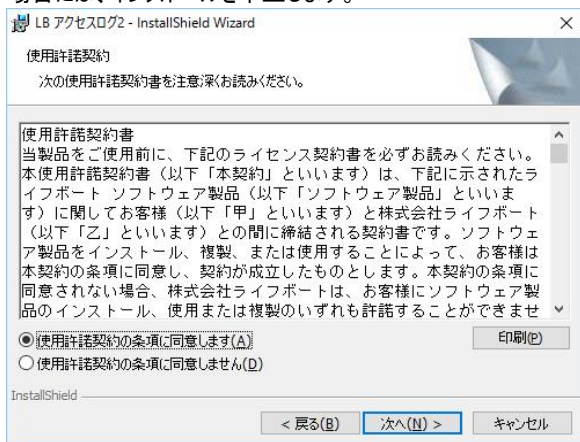
<メニューの説明>

サポート情報を表示	ライフボートのホームページを開いて、サポートセンターのご利用に関する情報を表示します。
サポートセンターご利用の手引	サポートセンターご利用の手引(PDF)を開きません。
最新情報	ライフボートのホームページを開いて、『LB アクセスログ2』の最新情報を表示します。 最新のアップデートや FAQ はこちらをご覧ください。
Adobe Reader の入手	Adobe Reader が PC にインストールされていない場合にクリックします。
前へ戻る	前のページへ戻ります。
終了	メニュー画面を終了します。

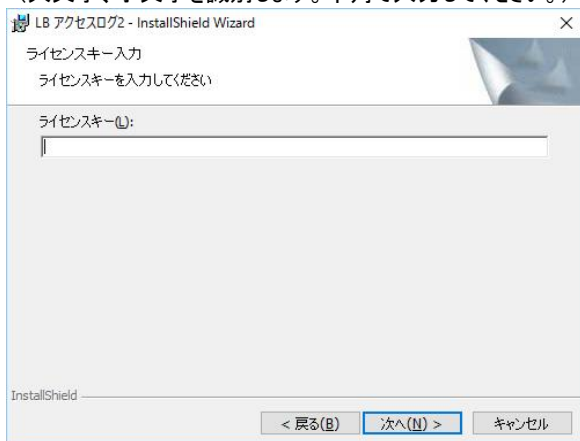
3. メニューの最初の画面から「インストール」をクリックすると、『LB アクセスログ2』のインストーラが起動します。「次へ」をクリックしてください。



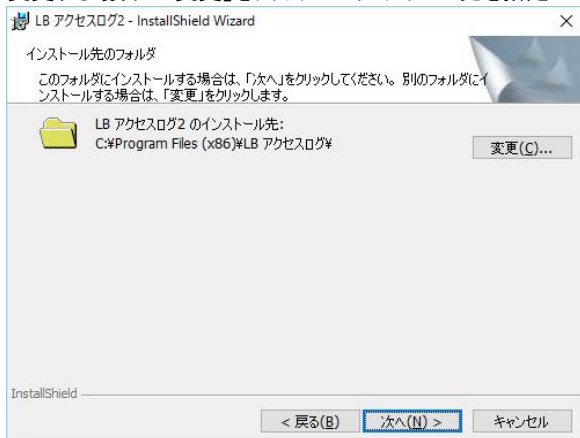
4. 「使用許諾契約」画面が表示されます。契約内容をよくお読みいただき、同意いただける場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」、同意いただけない場合には「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択してください。同意いただけない場合には、インストールを中止します。



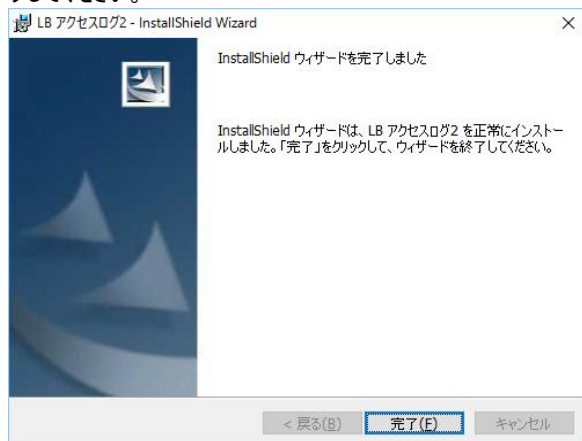
5. 「ライセンスキー入力」画面が表示されますので、ライセンスキーを入力してください。
(大文字、小文字を識別します。半角で入力してください。)



6. インストール先を選択する画面が表示されます。初期設定のままであれば、「次へ」をクリックしてください。インストールが開始されます。
変更する場合は「変更」をクリックしてインストール先を指定してください。

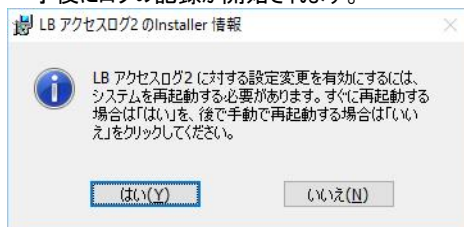


7. 「終了しました」画面が表示されるとインストール作業は完了します。「完了」をクリックしてください。



8. システムの再起動を求めるウィンドウが表示されます。『LB アクセスログ2』を動作させるためには、再起動が必要となります。「はい」をクリックしてシステムを再起動してください。インストール作業は完了します。

※ 再起動すると、初期設定ウィザード「第3章」が起動されます。初期設定の完了後にログの記録が開始されます。

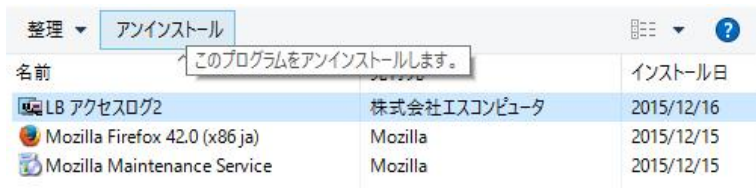


第2節 アンインストール

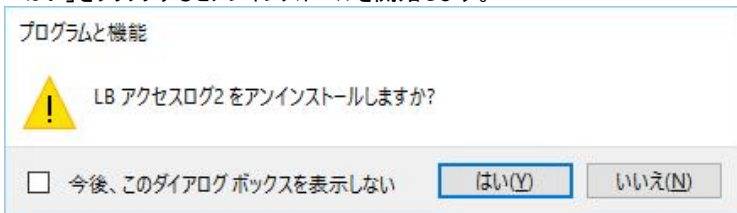
プログラムのアンインストールを開始する前に、予め管理者権限のあるユーザーでWindows にログオンしておく必要があります。

プログラムをアンインストールしても記録されたログは削除されませんが、予めバックアップを取っておくことをお勧めします。暗号化されたログをアンインストール後に参照する場合、「LB ファイルロックシリーズ」(フリーレシーバーを含む)をご用意ください。ログファイルを消去したい場合は、アンインストール後に保存先のフォルダーから手動で削除してください。

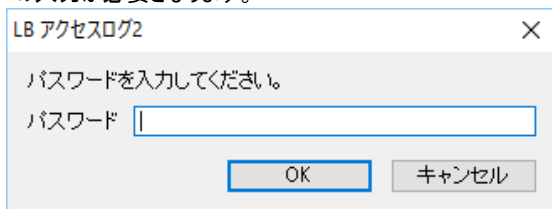
- Windowsの「スタート」-「コントロールパネル」-「プログラムと機能」-「LB アクセスログ2」の順に選択して「アンインストール」を実行します。



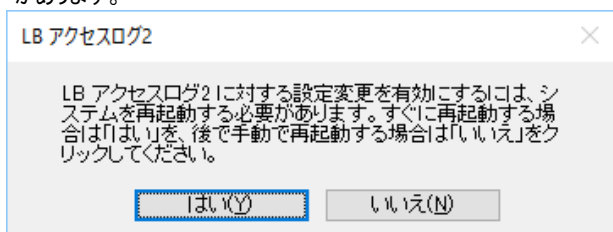
- 「はい」をクリックするとアンインストールを開始します。



3. アンインストール時にパスワードが必要な設定 (P26)をしている場合は、パスワードの入力が必要となります。



4. アンインストールを完了するためには「はい」をクリックしてシステムを再起動する必要があります。



第3章 初期設定とリアルタイムモニタの起動

第1節 初期設定

インストール後、システムを再起動して Windows にログオンすると、初期設定ウィザードが起動されます。ログの記録は初期設定の完了後に開始されます。

※ Windows 8/10 の場合、デスクトップを起動した時点でウィザードが表示されます。

初期設定を「キャンセル」した場合、ログは記録されません。初期設定が完了するまで、ログオンの都度初期設定ウィザードが表示されます。

初期設定はユーザー毎に必要となり、各ユーザーのログオン時にウィザードが表示されます。すべてのユーザーに同じ設定を適用する「共通設定オプション」を利用すると、初期設定を1回で済ませることができます。


共通設定は初期設定完了後に設定します「第5章 第2節」。

1. ログを取得したい項目をチェックして「次へ」をクリックします。
 - ※ 初期設定時は全ての項目がチェックされています。
 - ※ 実際の運用に際しては、初期設定の完了後に「第6章」を参照して、フィルタ設定等の使用環境に応じた設定をすることをお勧めします。



2. 必要な項目をチェックして「完了」をクリックすると初期設定は完了します。初期設定の完了と同時にログの記録が開始され、同時にリアルタイムモニタが起動します。



<p>タスクトレイにアイコンを表示する</p>	<p>タスクトレイにアプリケーションアイコンを表示します。</p> 
<p>起動時、復帰時にスプラッシュウィンドウを表示する</p>	<p>起動時に『LB アクセスログ2』のスプラッシュウィンドウをデスクトップ上に表示します。</p>
<p>このユーティリティとリアルタイムモニタを開く時、およびアンインストール時に、パスワードを求める</p>	<p>ユーティリティ、リアルタイムモニタの起動時、アンインストール時にパスワード入力を求めるように設定できます。 ※ パスワードは 1 バイト以上の英数字、記号、空白を含む印刷可能な半角文字(半角カナを除く)を設定する必要があります。</p>

第2節 リアルタイムモニタの起動

初期設定が完了すると、リアルタイムモニタが起動します。リアルタイムモニタは、保存されるログの内容を、逐一画面上に表示するウィンドウです。初期設定では、起動時にリアルタイムモニタを自動表示する設定になっていますが、表示が不要の場合は、「ユーティリティ」の「リアルタイムモニタ」から設定を変更することができます。画面上的ボタン、またはメニューからリアルタイムモニタ表示の一時的な変更や、各種ログの除外設定をすることができます。ユーティリティの設定は、「ファイル」-「LB アクセスログ2の起動」を選択します。

リアルタイムモニタを閉じたり、表示を停止したりしても、ログファイルに記録される内容が変わることはありません。

ログファイルへの記録はリアルタイムモニタ上の表示と同時に実行されません。一旦システムにキャッシュされてからログファイルへの記録が実行されます。

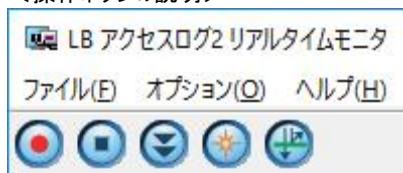


<リアルタイムモニタの表示内容>






20160107	14:46:37	プロセス	「Setup.exe」が起動しました
①日付	②時刻	③種類	④詳細

①日付	イベントの発生年月日
②時刻	イベントの発生時刻
③種類	「ログ設定」の「ログ取得機能」の各項目(「ログオンとログオフ」、「ハードウェアの追加と削除」、「ファイルアクセス」、「インターネットアドレス」、「キーボード」、「ウィンドウ」、「プロセス」、「ファイル操作」、「印刷」、「Web アップロード」)のいずれかが表示されます。
④詳細	イベントの内容

< 操作ボタンの説明 >



※ 説明のため全てのボタンを押した状態で表示しています。

ボタン	説明
	リアルタイムモニタの表示を開始する ログに記録されるイベントの表示を開始します。保存しているログの内容が逐一画面に表示されます。
	リアルタイムモニタの表示を停止する ログに記録されるイベントの表示を停止します。表示が停止している間も、ログは記録し続けられています。
	自動でスクロールする 一時的に自動スクロールの設定を変更します。押されていると自動スクロールし、もう一度押されると自動スクロールが停止します。
	リアルタイムモニタの表示を消去 画面の表示を消去します。ログの記録には影響しません。
	除外条件の追加 選択したログの内容を除外条件に追加します(「キーボード」をここから追加することはできません)。ファイルアクセスの除外条件追加「第 6 章 ログ設定の詳細」の除外フィルタと同じ設定をマウス操作だけで実現できます。

第4章 ログの管理

第1節 ログの保存先

ログファイルは Windows のユーザー毎に作成され、初期設定では次のフォルダーに保存されます。

C:\Users\<ユーザー名>\Documents\ LB アクセスログ2
(ユーザー名: 現在Windowsにログオンしているユーザー名)

ログの保存先は設定変更により任意のパスを指定することができます。
(ネットワーク共有フォルダーを指定する場合には「自動コピー機能」を利用することをお勧めします。)
設定の変更は「第5章 第3節」をご参照ください。

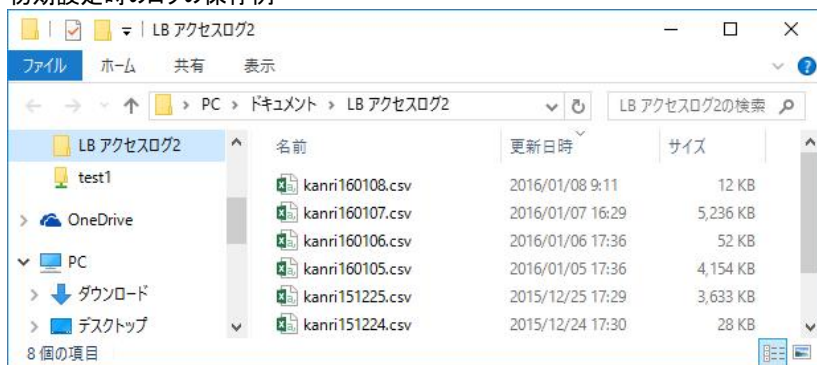
ログファイル名は次の形式で自動的に命名されます。

例: kanri160108.csv CSV 形式(初期設定)の場合

kanri	160108	.csv (メッセージ形式を選択した場合は.log)
ユーザー名	日付(YMMDD)	ファイル拡張子

- ※ コンピュータ名を付加するオプションをチェックした場合は、「コンピュータ名_kanri160108.csv」のようになります。
- ※ ログファイルは 1 日に 1 ファイル生成されます (Windows にログオン中は 00:00 に新しいファイルに自動的に切り替わります)。
- ※ 電源 OFF の期間、Windows にログオンしていない期間のログは生成されません。

初期設定時のログの保存例



- ※ ログはネットワーク共有フォルダーに保存することもできます。
- ※ 1日あたりのログファイルのサイズは記録する項目の設定内容やPCの使用状況により大きく異なります。
- ※ 記録中のログファイルはロックされており、編集したり削除したりすることはできません。記録が終了した過去のログファイルについては編集、削除が可能です。記録終了後のログファイルの改ざんを防ぐために、暗号化オプションや自動コピーの使用をお勧めします。

第2節 ログの内容

保存されるログは CSV 形式(初期設定)またはメッセージ形式を選択することができます。記録されるログの内容は形式により異なります。

<CSV 形式>

下図は MS Excel を使用してファイルを開いています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	コンピュータ名	IPアドレス	ログイン名	年月日	時刻	ログ種類	ログ種類詳細	タイトル	パス1	パス2	URL
2	PC520	127.0.0.1	kanri	2012/1/21	11:51:04	ファイル操作	コピー		C:\Users¥¥C:\Users¥kanri¥Desk		
3	PC520	127.0.0.1	kanri	2012/1/22	11:51:03	ファイル操作	コピー		C:\Users¥¥C:\Users¥kanri¥Desk		
4	PC520	127.0.0.1	kanri	2012/1/22	11:51:03	ファイル操作	コピー		C:\Users¥¥C:\Users¥kanri¥Desk		
5	PC520	127.0.0.1	kanri	2012/1/22	11:51:03	ファイル操作	コピー		C:\Users¥¥C:\Users¥kanri¥Desk		
6	PC520	127.0.0.1	kanri	2012/1/22	11:51:03	ファイル操作	コピー		C:\Users¥¥C:\Users¥kanri¥Desk		

例:

コンピュータ名,IPアドレス,ログイン名,年月日,時刻,ログ種類,ログ種類詳細,タイトル,
パス1,パス2,URL,プリンタ名,プリンタIPアドレス,総ページ数,パラメータ,エラー値
PC520U,192.168.0.20,kanri,2012/2/7,8:40:45,ファイルアクセス
,,,SearchProtocolHost.exe,C:\Users¥¥kanri¥Documents¥desktop.ini,,,,,

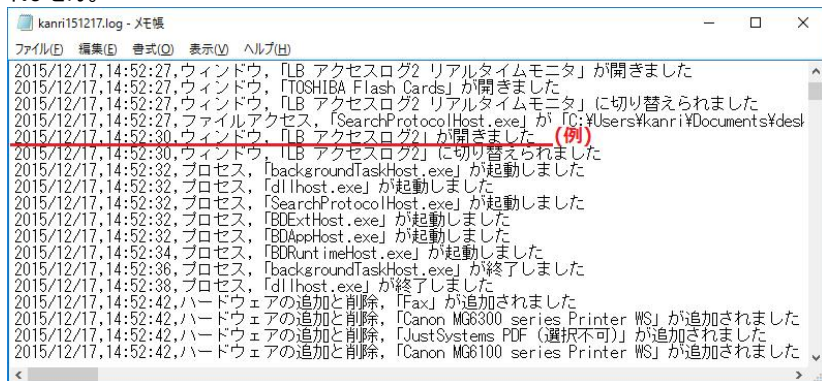
項目	説明
コンピュータ名 ※	イベントが発生した PC 名
IP アドレス ※	イベントが発生した PC の IP アドレス
ログイン名	ログイン中のユーザー名
年月日	イベントが発生した日時
時刻	イベントが発生した時刻
ログ種類	ログの種類(ログオンとログオフ、ハードウェアの追加と削除、ファイルアクセス、プロセス等)
ログ種類詳細	ログの種類の詳細(ログオンとログオフの場合: ログオン、スタンバイ、ロック、ログオフ等)
タイトル	ウィンドウログのウィンドウタイトル
パス 1	ファイルの移動元、コピー時のコピー元、ファイルにアクセスしたプロセス
パス 2	ファイル移動先、コピー時のコピー先、プロセスがアクセスしたファイル
URL	インターネットアドレス、Web アップロードの URL
プリンタ名	印刷に使用されたプリンタ名
プリンタ IP アドレス	ネットワークプリンタの IP アドレス

総ページ数	印刷されたドキュメントのページ数
パラメータ	実行ログ(ファイル操作)の実行パラメータ
エラー値	実行ログ(ファイル操作)のエラー

※ コンピュータ名とIP アドレスの情報は CSV 形式の場合のみ記録されます。

<メッセージ形式>

ログの種類とメッセージが記録されます。メッセージ形式のログはコンピュータ名が記録されません。



例:

2015/12/17,14:52:30,ウィンドウ,「LB アクセスログ 2」が開きました

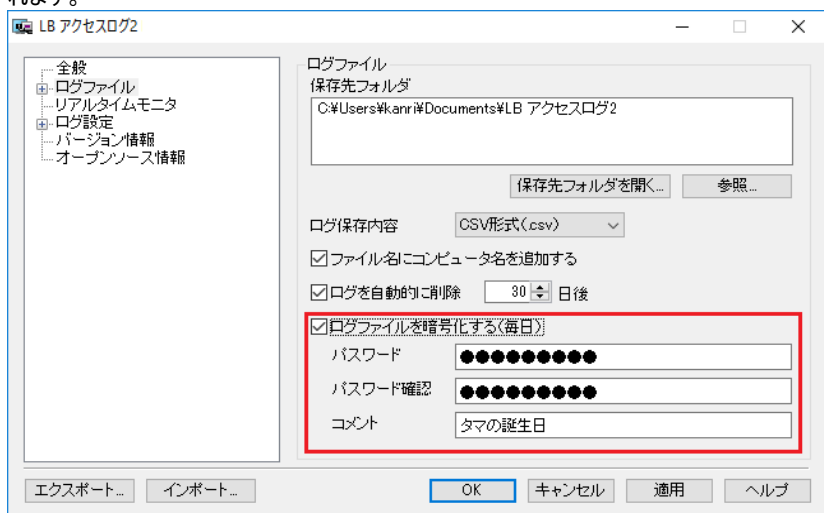
2015/12/17	14:52:30	ウィンドウ	「LB アクセスログ2」が開きました
①日付	②時刻	③種類	④詳細

①日付	ログの表示された年月日を表示
②時刻	ログの記録された日時を表示
③種類	ログの種類 「ログ設定」の「ログ取得機能」の各項目(「ログオンとログオフ」、「ハードウェアの追加と削除」、「ファイルアクセス」、「インターネットアドレス」、「キーボード」、「ウィンドウ」、「プロセス」)のいずれかを表示(ログ取得機能 DLL を追加した場合は追加したものも表示対象となります)
④詳細	イベントの内容

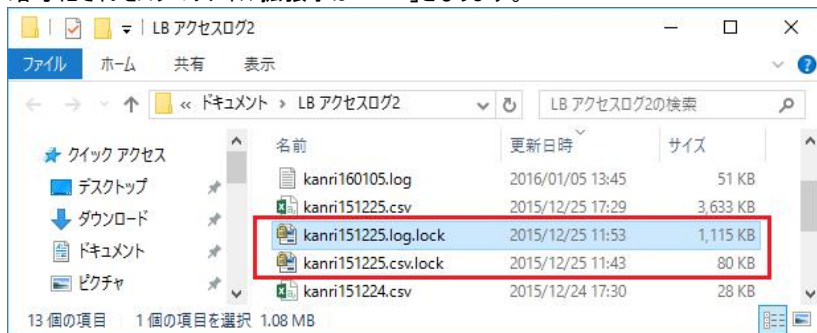
第3節 ログファイルの暗号化

ログファイルの暗号化オプションをチェックすると、日付が変わり記録中のファイルが切り替わるタイミングで、記録が終了したログが自動的に暗号化されます。

暗号化は『LB ファイルロック2』形式 (暗号化アルゴリズムはAES256ビットを使用) で行われます。



暗号化されたログのファイル拡張子は「.lock」となります。

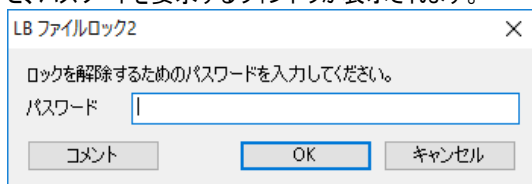


kanri151225.log.lock メッセージ形式のログが暗号化されたファイル

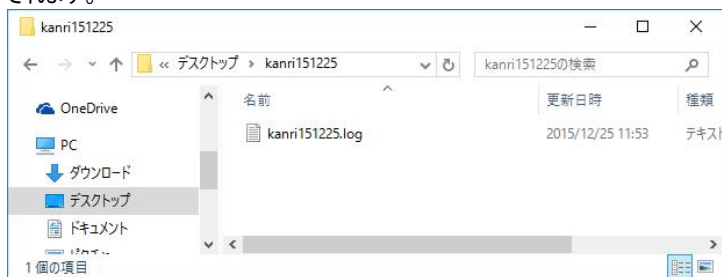
kanri151225.csv.lock csv形式のログが暗号化されたファイル

<暗号化されたログファイルの復号化>

『LB アクセスログ2』がインストールされたPC上で暗号化されたファイルをダブルクリックすると、パスワードを要求するウィンドウが表示されます。

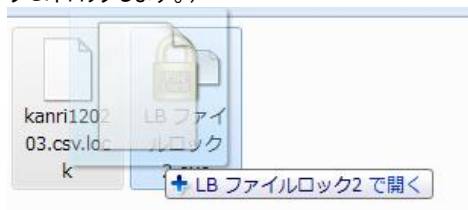


パスワードを入力して「OK」をクリックすると、デスクトップにフォルダー付きの状態での復号化されます。



『LB アクセスログ2』がインストールされていない環境で復号化する場合は「LB ファイルロックシリーズ」(フリーレシーバーを含む)をご用意ください。

(暗号化されたログファイルを「LB ファイルロックシリーズ」のアプリケーションアイコンにドラッグ&ドロップします。)

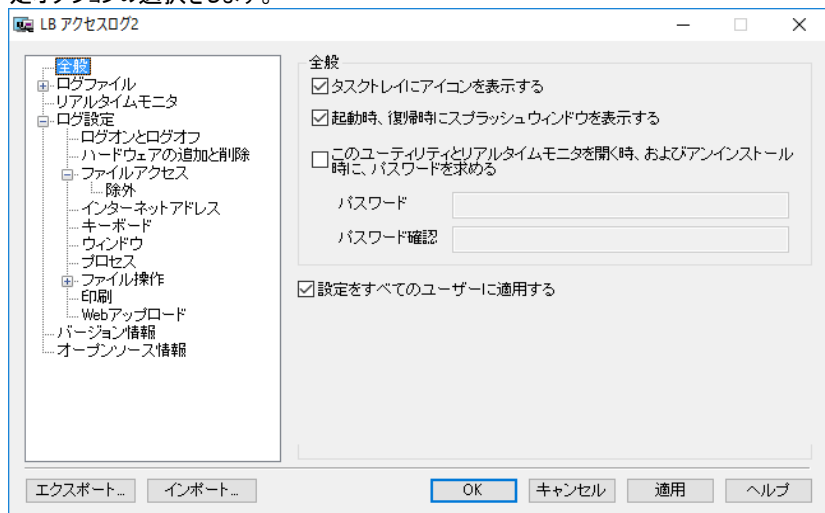


第5章 LB アクセスログ 2 の設定

「スタート」から「LBアクセスログ2」を選択するか、タスクトレイのアイコンをクリックすると『LBアクセスログ2』のユーティリティを開くことができます。ユーティリティではログの記録に関する様々な設定をすることができます。『LBアクセスログ2』のインストール後、この画面を開いて、設定内容を確認していただき、ご使用の状況に合わせた設定に変更することをお勧めします。

第1節 全般

起動時のスプラッシュウィンドウ/タスクトレイアイコンの表示、パスワードの設定、共通設定オプションの選択をします。



<設定項目>

タスクトレイにアイコンを表示する

タスクトレイに『LB アクセスログ2』のアイコンを表示します。



起動時、復帰時にスプラッシュウインドウを表示する



ログオン時にスプラッシュウインドウをデスクトップ上に表示します。

このユーティリティとリアルタイムモニタを開く時、およびアンインストール時に、パスワードを求める

設定内容やプログラムを保護するためにパスワードを設定することができます。

※ パスワードは1バイト以上の英数字、記号、空白を含む印刷可能な半角文字（半角カナを除く）を設定する必要があります。

設定をすべてのユーザーに適用する（共通設定オプション）

すべてのユーザーに同じ設定が適用されます（次節「共通設定オプション」参照）。

エクスポート / インポート

ログ内容やログファイルに関する設定情報を他のPCにコピーすることができます（「第5章 第7節」参照）。

適用

設定変更した後に変更内容を反映させます。

第2節 共通設定オプション

ログはWindowsのユーザー単位で生成されるため、複数のユーザーが使用するPCではプログラムのインストール後、各アカウントの初回ログオン時に、初期設定でログの保存先や記録する項目を設定する必要があります。

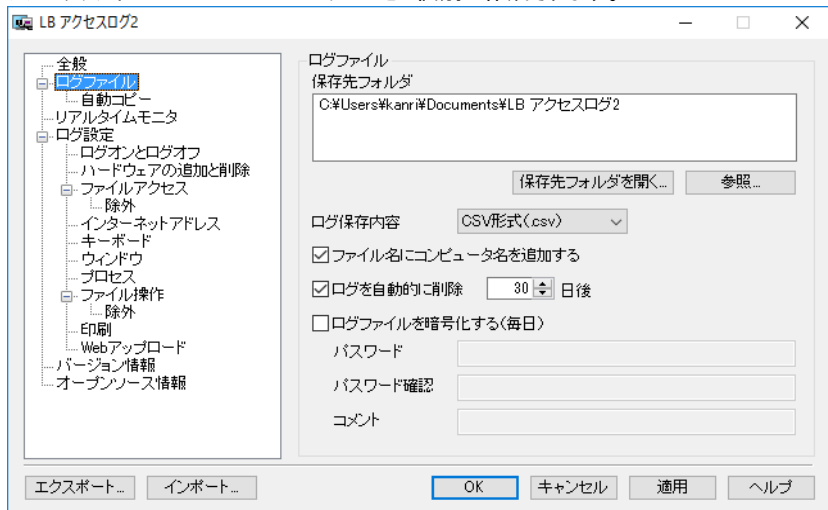
共通設定オプション（「設定をすべてのユーザーに適用する」前節参照）を有効にすると、すべてのユーザーに同じ設定を適用するため、ユーザー数の多いPCやActive Directory環境で運用する場合に便利です（ログファイルはユーザー単位で生成されます）。

共通設定を適用すると、他のユーザーの設定が既に済んでいる環境では、それらの設定がすべて現在のユーザーの設定に書き換えられます。『LB アクセスログ2』を運用中の環境に適用する場合は特にご注意ください。また、不用意な書き換えを防ぐため、同時にパスワード設定（前のページ 第1節）をしておくことをお勧めします。

第3節 ログファイル

ログファイルの保存先や保存方法の変更をします。

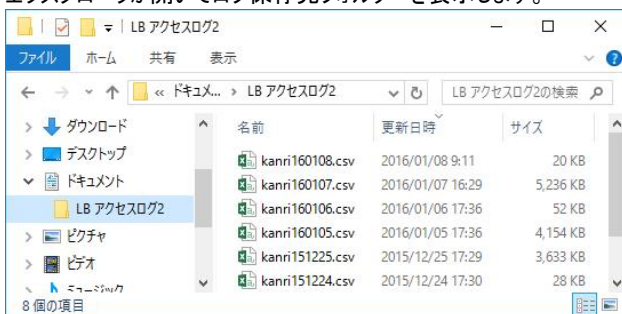
※ ログファイルは Windows のユーザーごとに個別に作成されます。

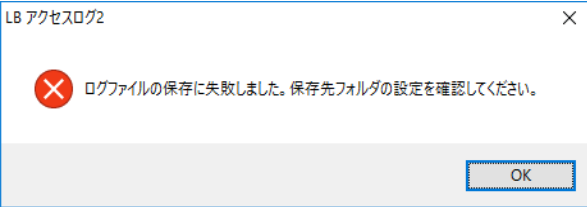


<画面の説明>

保存先フォルダ 現在ログオンしているユーザーのログファイル保存先フォルダが表示されます。

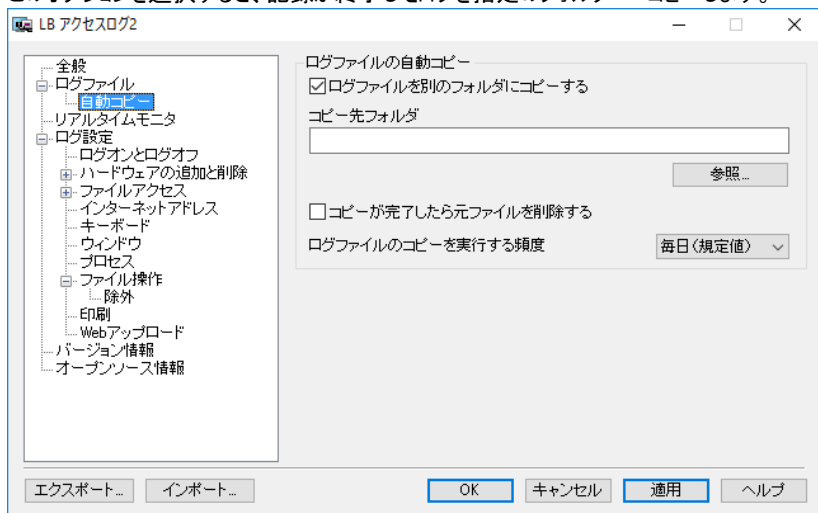
保存先フォルダを開く エクスプローラが開いてログ保存先フォルダを表示します。



	<p>※ ログファイル保存先フォルダーにアクセスできない場合、以下のメッセージが表示されます。設定した保存先を確認してください。ログが正常に保存できるまで、このメッセージが表示されます。</p> 
参照	<p>ログの保存先を変更する場合にクリックします。エクスプローラが起動するので、新しい保存先を選択してください。</p> <p>※ ネットワークに接続している場合、ネットワーク共有フォルダーを指定することもできますが、ネットワークが切断されるとログを保存できず上図のエラーが表示されます。自動コピー（次節）の機能を利用することをお勧めします。</p>
ログ保存内容	<p>2種類のログ保存形式をプルダウンリストから選択できます。</p> <p>CSV形式(.csv) - 検索等2次利用する際に便利です。</p> <p>メッセージ形式(.log) - テキスト形式でログを保存します。</p> <p>※ 記録途中で形式を変更すると、変更時刻以降のログが別ファイルとして生成され、新しい形式で保存されます。変更前のログは元の形式で保存されます。</p>
ファイル名にコンピュータ名を追加する	<p>ログファイル名の先頭に「コンピュータ名_」を付加します。</p> <p>例: pcname_160108.csv</p>
ログを自動的に削除	<p>指定した日数が経過するとログを自動的に削除します。</p> <p>※ 初期設定値では 30 日で自動的に削除されます。</p>
ログファイルを暗号化する（毎日）	<p>ログの記録終了時にファイルを暗号化して保存します。</p> <p>パスワード/パスワード確認 - パスワードを入力します。</p> <p>コメント - パスワードのヒントを入力します。</p> <p>※ 暗号化には『LB ファイルロック 2』と同じアルゴリズム(AES256ビット)を使用しています。『LB アクセスログ 2』がインストールされていない環境で復号化する場合、「LB ファイルロックシリーズ」（フリーレシーバーを含む）をご用意ください。</p> <p>詳細は「第 4 章 第 3 節」をご参照ください。</p>

第4節 自動コピー

このオプションを選択すると、記録が終了したログを指定のフォルダーへコピーします。



<画面の説明>

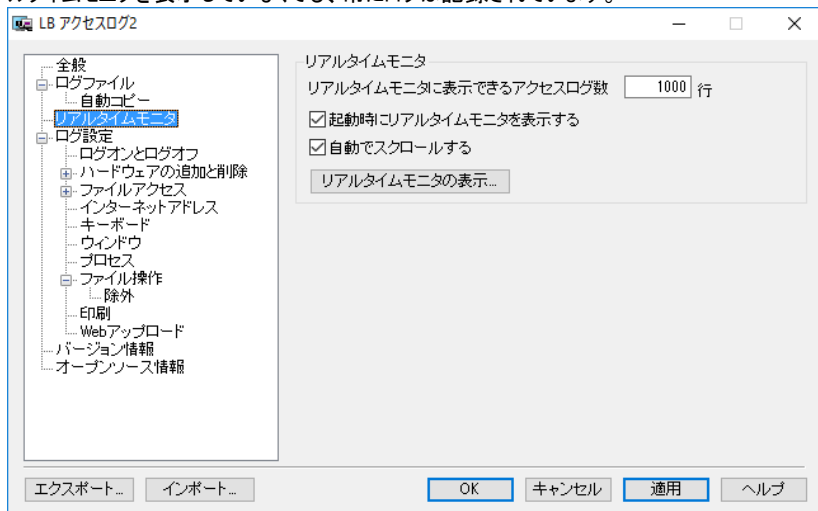
ログファイルを別のフォルダにコピーする	チェックすると、記録されたログが定期的に指定先へコピーされます。
コピー先フォルダ	「参照」でログファイルのコピー先を指定します。
コピーが完了したら元ファイルを削除する	自動コピーが成功した時点で元のログを削除します。
ログファイルのコピーを実行する頻度	15分～24時間までの6通りから選択します(暗号化を選択した場合、コピー時に暗号化されます)。

※ コピーが実行される時刻に、PCの電源がOFFの場合やコピー先のネットワークドライブに接続できない等の理由でコピーが実行できない場合、コピーが可能となった時点でコピーが実行されます。

自動コピーは、ログの保存先をネットワーク共有フォルダーに設定する場合に便利です。ログの保存先をネットワークドライブ上に設定した場合、ネットワークに常時アクセスできないモバイル機ではログが記録されないケースが発生します。自動コピーを併用すると、ネットワーク切断時はローカル上にログを残せるため、記録漏れを回避することができます。

第5節 リアルタイムモニタ

リアルタイムモニタは、記録しているログの内容を随時画面に表示するウィンドウです。リアルタイムモニタを表示してなくても、常にログは記録されています。

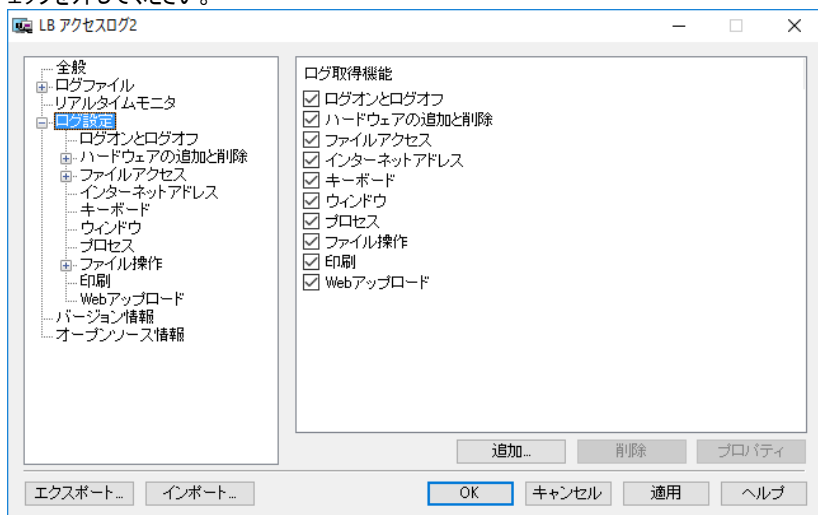


<画面の説明>

リアルタイムモニタに表示できるアクセスログ数	リアルタイムモニタに表示したい行数を指定します（設定できる行数は最大 10,000 行です）。
起動時にリアルタイムモニタを表示する	ログオン後にリアルタイムモニタを表示します。
自動でスクロールする	リアルタイムモニタのスクロールを自動的に実行します。
リアルタイムモニタの表示	ボタンを押すと同時にリアルタイムモニタが表示されます。

第6節 ログ設定

ユーティリティ画面を起動すると、最初に「ログ設定」が開きます。ここでは取得できるログの一覧がリストに表示されていますのでログとして残したくない項目については、リストのチェックを外してください。

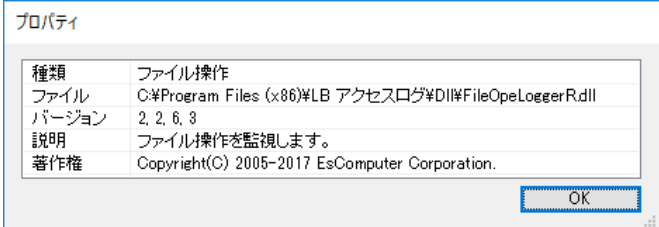


<記録できるログの種類>

ログオンとログオフ	ログオン、スタンバイ、スタンバイからの復帰、ロック、ロックの解除、ユーザーの切り替え、ユーザーの切り替えからの復帰、ユーザーの切り替え(リモート)、ユーザーの切り替えからの復帰(リモート)、ログオフ、終了を記録します。
ハードウェアの追加と削除	ドライブレターの追加、ドライブレターの削除、デバイスの追加、デバイスの削除、ドライブレターの除外指定が可能です。
ファイルアクセス	フォルダーを指定し、その中のフォルダーやサブフォルダーを監視、ファイル・プロセスの除外指定が可能です。
インターネットアクセス	Internet Explorer、Firefox、Chrome ブラウザで表示した Web ページの閲覧履歴を記録します。URL の除外指定が可能です。
キーボード	キー押下、連続押下(繰り返し入力を全て記録)、キーを離す、キー内容を記録します。

ウィンドウ	ウィンドウのオープン、ウィンドウの切り替えを記録します。ウィンドウの除外指定が可能です。
プロセス	既に起動中のプロセス、プロセスの起動、プロセスの終了を記録します。プロセスの除外指定が可能です。
ファイル操作	ファイルのコピー、移動、削除、リネーム、実行を記録します。
印刷	印刷を記録します。
Web アップロード	Internet Explorer を使用したファイルのアップロード (http、https) を記録します。

<追加、削除、プロパティ>

追加	ログ取得機能 DLL を追加します (通常は使用しません)。												
削除	ログの種類をリストから削除します (通常は使用しません)。												
プロパティ	<p>選択したログ取得機能 DLL の種類とバージョン情報が表示されます。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">プロパティ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>ファイル操作</td> </tr> <tr> <td>ファイル</td> <td>C:\Program Files (x86)\LB アクセスログ2\DLL\FileOpLoggerR.dll</td> </tr> <tr> <td>バージョン</td> <td>2.2.6.3</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>ファイル操作を監視します。</td> </tr> <tr> <td>著作権</td> <td>Copyright (C) 2005-2017 EsComputer Corporation.</td> </tr> </tbody> </table>	プロパティ		種類	ファイル操作	ファイル	C:\Program Files (x86)\LB アクセスログ2\DLL\FileOpLoggerR.dll	バージョン	2.2.6.3	説明	ファイル操作を監視します。	著作権	Copyright (C) 2005-2017 EsComputer Corporation.
プロパティ													
種類	ファイル操作												
ファイル	C:\Program Files (x86)\LB アクセスログ2\DLL\FileOpLoggerR.dll												
バージョン	2.2.6.3												
説明	ファイル操作を監視します。												
著作権	Copyright (C) 2005-2017 EsComputer Corporation.												

第7節 設定のエクスポートとインポート

ログの記録内容や保存先等の設定内容を他の PC へエクスポートすることができます。複数の PC で同じ設定を利用する場合にご利用ください。選定のインポート後にシステムの再起動が必要となります。

エクスポートされる設定は、エクスポートの操作実行時にログオンしているユーザーの設定情報のみです。複数のユーザーアカウントが存在する PC を使用している場合はご注意ください。

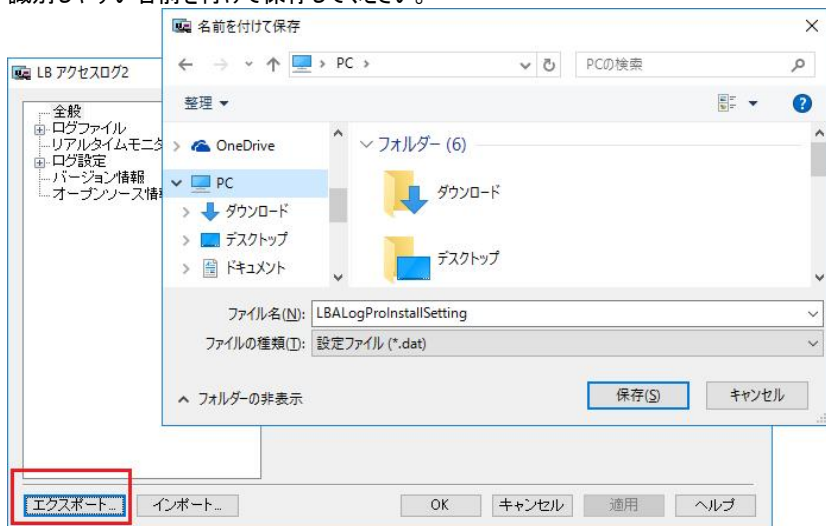
設定のエクスポート/インポートは、共通設定「第5章 第2節」の環境で実行することをお勧めします。

エクスポート/インポートの機能は Ver. 2.2.0 以降でご利用いただけます。

<エクスポート>

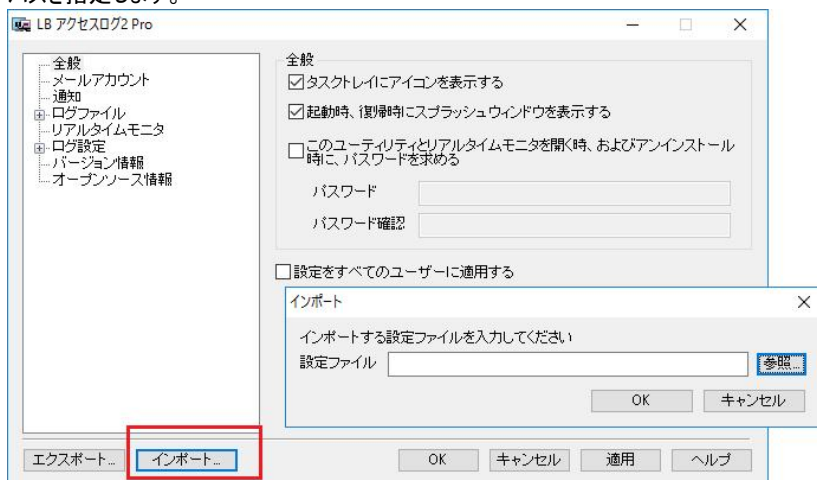
ユーティリティの左下部にある「エクスポート」をクリックすると、ファイルを保存するためのウィンドウが開きます。

識別しやすい名前を付けて保存してください。

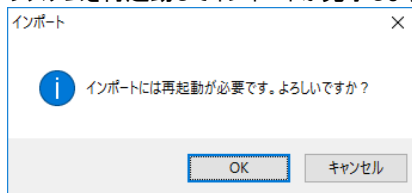


<インポート>

ユーティリティの左下部にある「インポート」をクリックして、インポートする設定ファイルのパスを指定します。



「OK」をクリックすると、システムの再起動を確認するウィンドウが表示されます。システムを再起動してインポートが完了します。



ユーティリティを開いて設定がインポートされたことを確認してください。

第6章 ログ設定の詳細

本章では各項目の設定の詳細について説明します。

実際にログの収集をする際は、必要な内容だけ記録する設定をしたり、反対に不要な項目を除外したりするニーズが生じます。

チェックを外した項目や、フィルタで除外した内容はディスクに記録されないため、後日、除外した内容のログが必要となっても取り出すことができません。

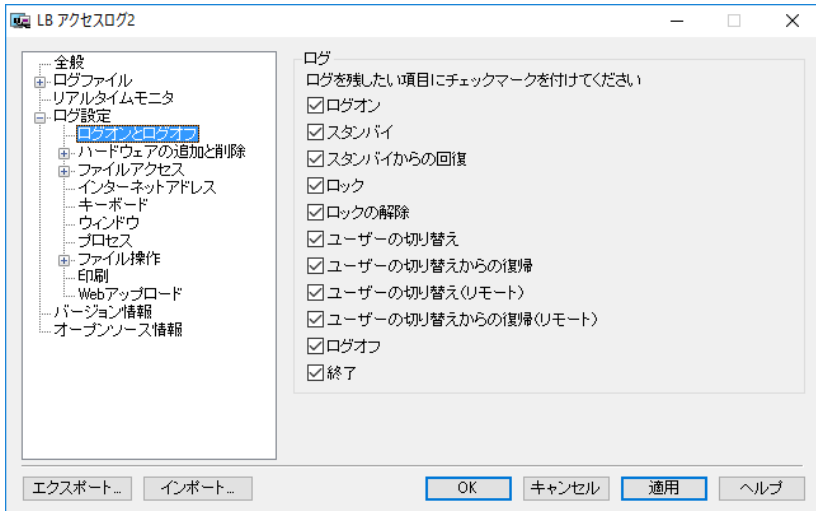
記録内容を絞り込むことは重要ですが、設定前に内容を十分にご検討ください。

フィルタ設定の実例をWeb上のFAQページにて公開していますのでこちらもご参照ください。

<http://www.lifeboat.jp/support/faq/>

第1節 ログオンとログオフ

ログオンとログオフについて、チェックした項目のログを記録します。ログに残したくない項目はチェックをはずします。



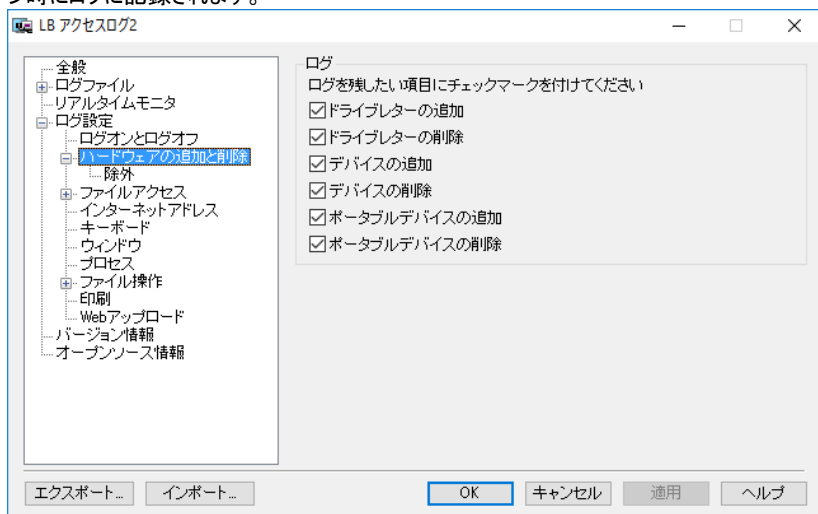
<項目の説明>

ログオン	PC へのログオンを記録します。
スタンバイ※	スタンバイモードへ切り替えを記録します。
スタンバイからの復帰	スタンバイモードからの復帰を記録します。
ロック	PC のロックを記録します。
ロックの解除	PCのロックの解除を記録します。
ユーザーの切り替え	ユーザーの切り替えを記録します。
ユーザーの切り替えからの復帰	切り替えたユーザーから元のユーザーへの復帰を記録します。
ユーザーの切り替え(リモート)	ユーザーの切り替え(リモートコンピュータからのログオン)を記録します。
ユーザーの切り替えからの復帰(リモート)	切り替えたユーザー(リモートコンピュータからのログオン)から元のユーザーへの復帰を記録します。
ログオフ	PC のログオフを記録します。
終了	PC の終了を記録します。

※ 「休止」および「スリープ」は「スタンバイ」として記録されます。

第2節 ハードウェアの追加と削除

デバイス、ストレージ、ドライブの追加と削除に関するログの設定をします。ログオフ時のハードウェアの状態を記録していますので、電源切断時、スタンバイ時に追加、削除されたハードウェアを検出します。追加、削除されたハードウェアは、次回ログオン時にログに記録されます。



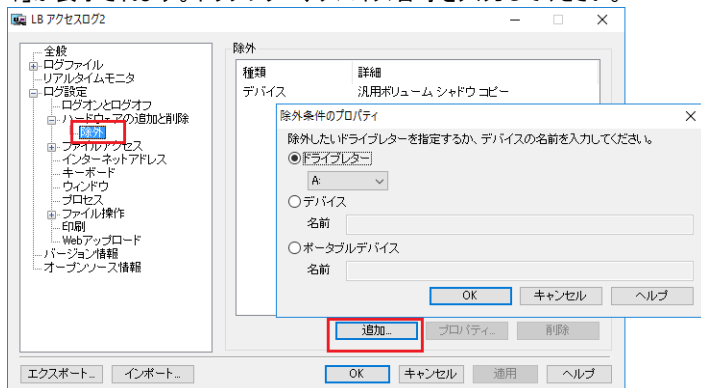
<項目の説明>

ドライブレターの追加	ドライブレターの追加を記録します。
ドライブレターの削除	ドライブレターの削除を記録します。
デバイスの追加	デバイスの追加を記録します。
デバイスの削除	デバイスの削除を記録します。
ポータブルデバイスの追加	USBフラッシュメモリ、スマートフォンの装着を記録します。
ポータブルデバイスの削除	USBフラッシュメモリ、スマートフォンの取り外しを記録します。

※ ログから除外したい項目がある場合は、次のページをご参照ください。

<除外条件を追加する方法>

「除外」を選択して画面を切り替えてから「追加」をクリックすると、「除外条件のプロパティ」が表示されます。ドライブレター、デバイス名等を入力してください。



<除外条件のプロパティ>

ドライブレター	プルダウンリストから除外リストに追加したドライブレターを選択します。ここで指定したドライブレターは、ログ記録されません。
デバイス名	<p>「デバイス名」ここで指定したデバイスは、ログに残らなくなります。デバイス名はデバイスマネージャで表示される名前を完全一致するように入力する必要があります。</p> <p>例： HID 準拠デバイスを除外条件に追加</p>

第3節 ファイルアクセス

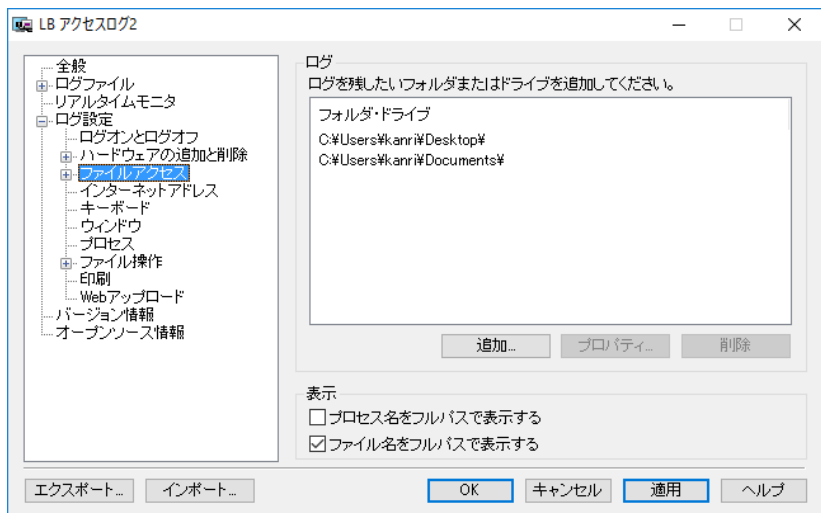
ログを残したいフォルダーまたはドライブに関する設定をします。指定したフォルダー・ドライブ以下に、除外したいフォルダー・ファイルがある場合は「除外」を選択して設定します。

初期設定でファイルアクセスが記録されるフォルダー

C:\Users\<ユーザー名>\Desktop

C:\Users\<ユーザー名>\Documents

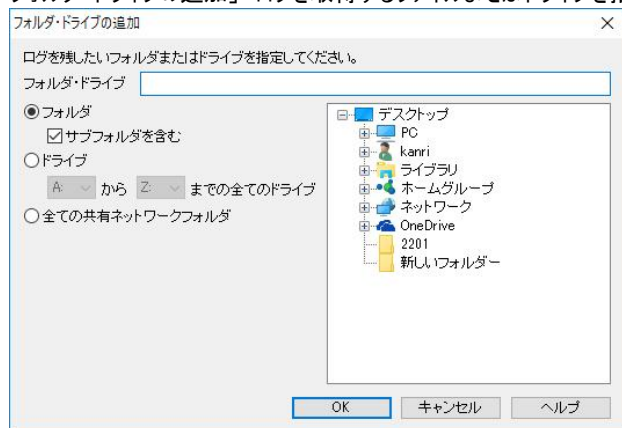
※ <ユーザー名>: Windows にログオンしているユーザー名



<設定項目の説明>

追加	ログを残したいフォルダーまたはドライブを設定する場合には「追加」ボタンをクリックして設定します。
プロパティ	リスト上で選択した設定の内容を表示します。
削除	リスト上で選択した設定を削除します。
プロセス名をフルパスで表示する	チェックするとフルパスのファイル名を、チェックを外すとファイル名のみを記録します。
ファイル名をフルパスで表示する	チェックするとフルパスのファイル名を、チェックを外すとファイル名のみを記録します。

「フォルダ・ドライブの追加」 ログを取得するファイルまたはドライブを指定します。



<フォルダ・ドライブの追加>

フォルダ・ドライブ	「フォルダ・ドライブ」右のツリー表示(「フォルダ」)、または左のチェック(「ドライブ」、「全ての共有ネットワークフォルダ」)で選択したフォルダー・ドライブが表示されます。
フォルダ	ログを残すフォルダーを右のツリーから指定します。
ドライブ	<p>ログを残すドライブプルダウンで選択して指定します。</p>
全ての共有ネットワークフォルダ	このPCから、共有ネットワークフォルダーへのアクセスを記録します。

※ フォルダ・ドライブの追加指定は「フォルダ・ドライブ」の入力ボックスに直接入力することも可能です。直接入力する場合はパス無しや相対パス、ファイル名等の細かい指定ができ、またファイル名には、一括して指定するためのワイルドカードを使用できます。ワイルドカードには、1文字の置き換えに使用する「?」と、複数文字の置き換えに使用する「*」があります。フォルダー名には、パス無し・フルパス・相対パスの指定をすることができます(フォルダー名にワイルドカードを使用することはできません)。

◇パス無しの例

sample.txt - ファイル名が sample.txt の全てのファイル

***.txt** - 拡張子 txt を持つ全てのファイル

a** - a で始まる全てのファイル

sample? - sample? の全てのファイル。?は任意の1文字

◇フルパスの例

C:¥dir¥test.exe - 指定されたファイルのみ

C:¥dir¥*.exe - C:¥dir¥フォルダー内で拡張子 exe を持つ全てのファイル

C:¥dir¥** - C:¥dir¥フォルダー内の全てのファイル

C:¥dir¥ - すべてのサブフォルダーを含めた、C:¥dir¥内の全てのファイル

◇相対パスの例

dir¥test.exe - dir¥フォルダー内の test.exe

dir¥*.exe - dir¥フォルダー内で拡張子 exe を持つ全てのファイル

dir¥** - dir¥フォルダー内の全てのファイル

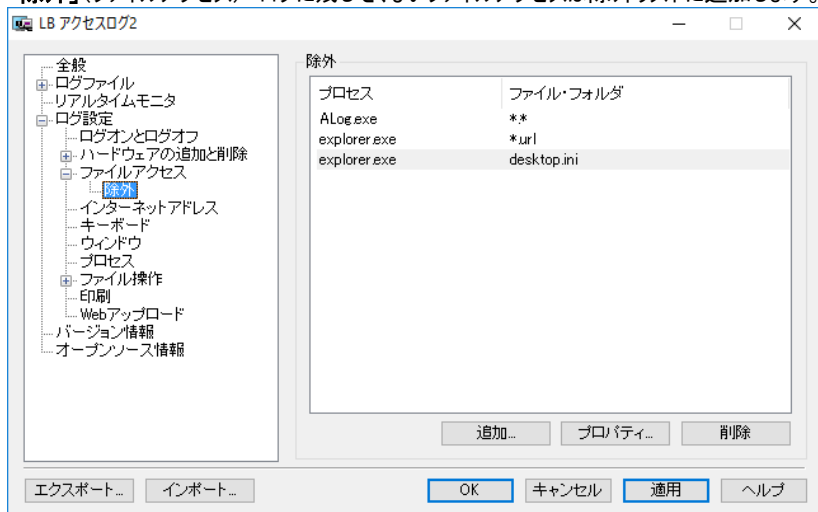
dir¥ - すべてのサブフォルダーを含めた、dir¥フォルダー内の全てのファイル

◇その他特別な文字列

D-Z: - D ドライブから、Z ドライブの全てのドライブ

¥¥ - 全ての共有ネットワークフォルダー

「除外」(ファイルアクセス) ログに残したくないファイルアクセスは除外リストに追加します。



< 除外の説明 >

追加	ログ取得から除外したいファイルアクセスを設定する場合には「追加」をクリックして設定します。 ※ 初期設定で除外されているプロセス(Alog.exe、explorer.exe)を除外から削除しないようにしてください。削除するとログのサイズが非常に大きなものとなります。
プロパティ	除外リストのファイルアクセスの情報を表示します。
削除	除外リストの設定を削除します。

<除外条件の追加の設定>

除外条件のプロパティ

除外したい、プロセスとファイルまたはフォルダを入力してください。

プロセス

プロセス

参照...

オペレーティングシステム

全て

ファイル・フォルダ

参照...

サブフォルダを含む

OK キャンセル ヘルプ

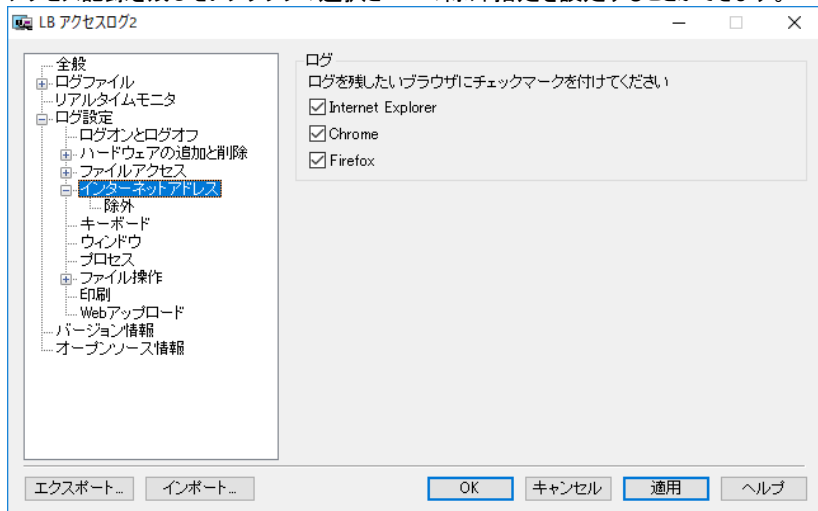
<除外条件追加の説明>

プロセス	参照をクリックして除外するプログラムのファイル名を追加します。
オペレーティングシステム	プロセスではなく、オペレーティングシステムによるファイルアクセスを指定します。「オペレーティングシステム」を選択する場合、同時に「ファイル・フォルダ」を指定する必要があります。
全て	全てのプロセスとオペレーティングシステムによるファイルアクセスを指定します。「全て」を選択する場合、同時に「ファイル・フォルダ」を指定する必要があります。
ファイル・フォルダ	アクセスされるファイル名またはフォルダ名を入力します。 ※ ファイル名には、一括して指定するためのワイルドカードを使用することができます。ワイルドカードには、1文字の置き換えに使用する「?」と、複数文字の置き換えに使用する「*」があります。フォルダ名には、パス無し・フルパス・相対パスの指定をすることができます(フォルダ名にワイルドカードを使用することはできません)。

第4節 インターネットアドレス

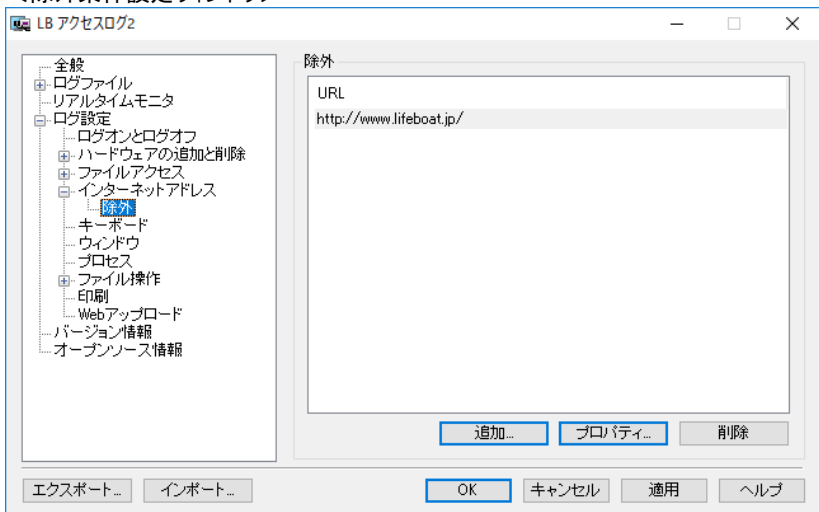
Internet Explorer、Google Chrome、Mozilla Firefoxによるアクセス履歴に関する設定をします。

アクセス記録を残したいブラウザの選択とURLの除外指定を設定することができます。



※ Internet Explorer、Google Chrome、Mozilla Firefox以外のブラウザには対応しておりません。

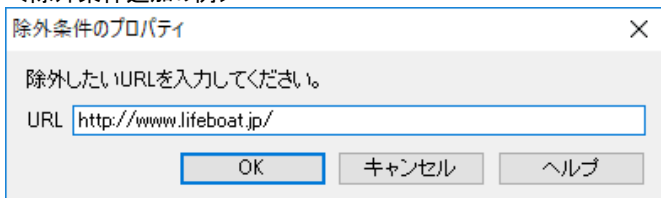
<除外条件設定ウィンドウ>



<設定項目>

追加	ログ取得から除外したいURLを設定する場合には「追加」をクリックして設定します。
プロパティ	除外リストのURL情報を表示します。
削除	除外リストの設定を削除します。

<除外条件追加の例>



http://www.lifeboat.jp/ を入力

http://www.lifeboat.jp/ 以下の全てのURLへのアクセスが除外されます。

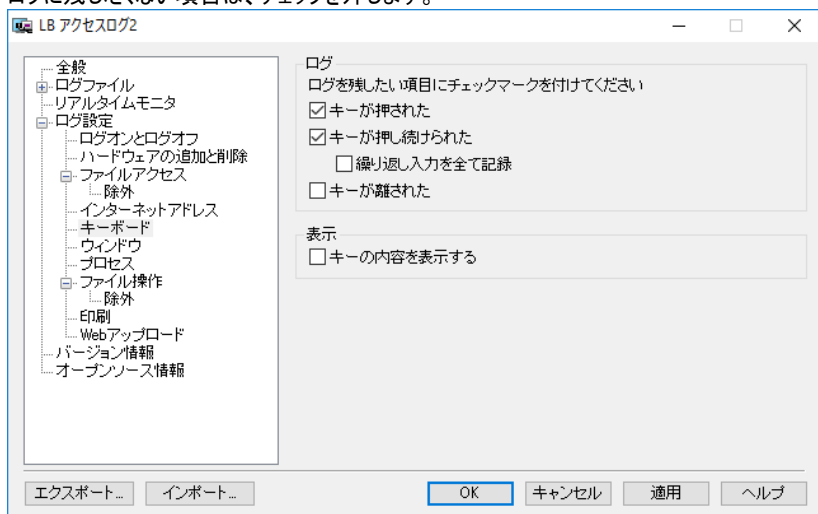
http://www.lifeboat.jp/index.html を入力

指定したURLのみアクセスが除外されます。

第5節 キーボード

キーボード入力のログに関する設定をします。初期設定は、「キーが押された」操作を記録します。項目にチェックを入れることで「キーが押し続けられた」、「繰り返し入力を全て記録」、「キーが離された」操作も記録することができます。

ログに残したくない項目は、チェックを外します。



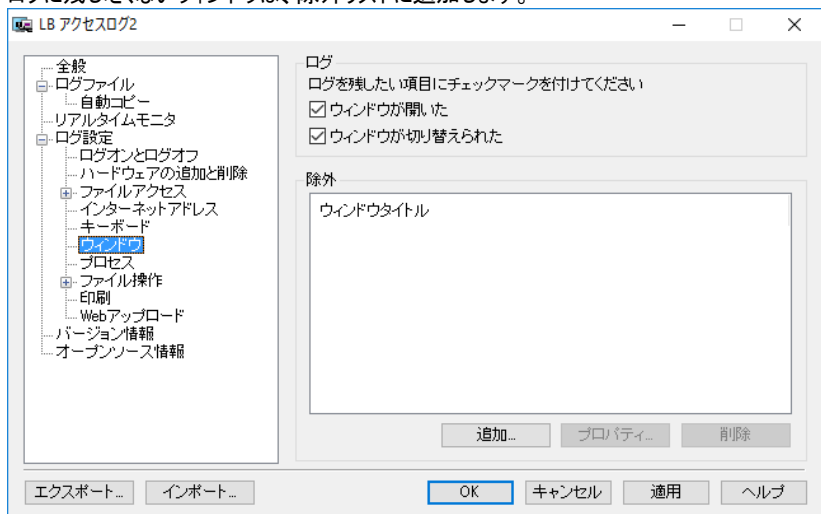
<設定項目>

キーが押された	キー押下を記録します(例: キーが離されました)。
キーが押し続けられた	キーが押し続けられた状態を記録します(例: キーが押し続けられています)。
キーが離された	キーを離した操作を記録します(例: キーが離されました)。
キーの内容を表示する	チェックを付けるとキーの内容を記録します(例: 「A」が押されました)。チェックを外すと内容は記録しません(例: キーが押されました)。

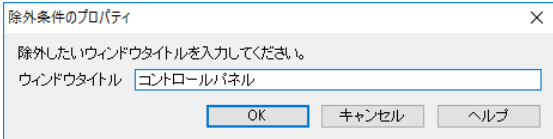
第6節 ウィンドウ

ウィンドウタイトルを監視し、「ウィンドウのオープン」、「ウィンドウの切り替え」に関するログを設定します。

ログに残したくないウィンドウは、除外リストに追加します。

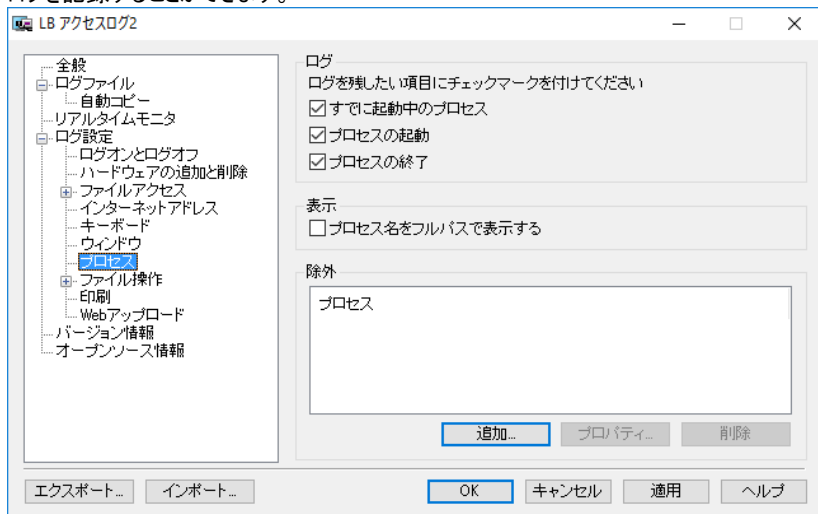


< 設定項目 >

ウィンドウが開いた	ウィンドウのオープンをログに記録します。
ウィンドウが切り替えられた	アクティブなウィンドウを切り替えた時、ログに記録します。
追加	<p>ログ取得から除外したいウィンドウタイトルを設定する場合に「追加」をクリックして設定します。</p> 
プロパティ	除外リストのウィンドウタイトルの情報を表示します。
削除	除外リストの設定を削除します。

第7節 プロセス

プロセスを監視し、「すでに起動中のプロセス」、「プロセスの起動」、「プロセスの終了」のログを記録することができます。

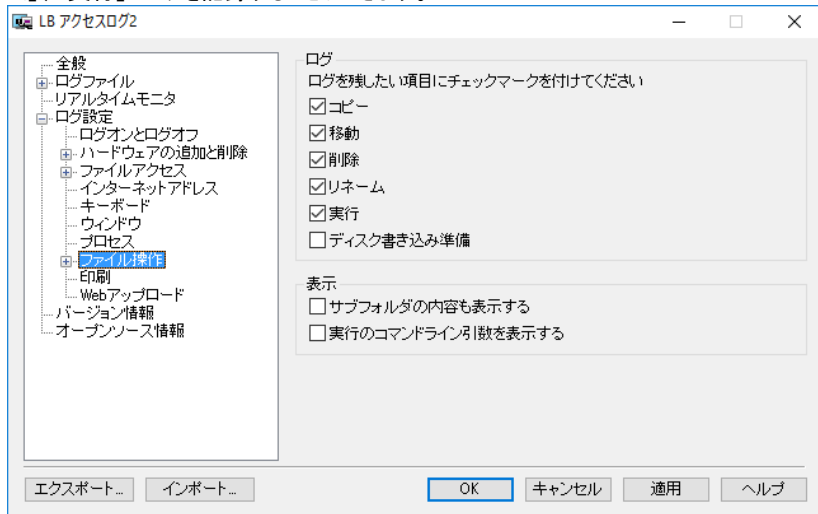


< 設定項目 >

すでに起動中のプロセス	ログオン時に『LB アクセスログ2』より前に起動しているプロセスを記録します。
プロセスの起動	プロセスの起動を記録します。
プロセスの終了	プロセスの終了を記録します。
プロセス名をフルパスで表示する	チェックを付けるとフルパスのファイル名を、チェックを外すとファイル名のみを記録します。
追加	ログ取得から除外したいプロセスを設定する場合には「追加」をクリックして設定します。
プロパティ	除外リストのプロセスの情報を表示します。
削除	除外リストの設定を削除する

第8節 ファイル操作

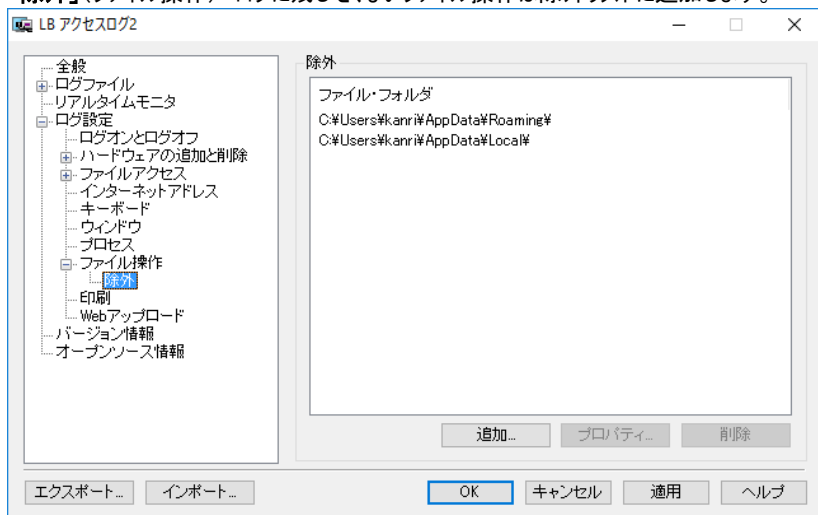
ファイルの操作を監視して記録します。ファイルの「コピー」、「移動」、「削除」、「リネーム」、「実行」のログを記録することができます。



<設定項目>

コピー	ファイルのコピーを記録します。
移動	ファイルの移動を記録します。
削除	ファイルの削除を記録します。
リネーム	ファイルのリネームを記録します。
実行	ファイルの実行を記録します。
ディスク書き込みの準備フォルダのログを記録する	チェックを付けると、ディスク書き込み準備フォルダへの、ファイル追加のログを記録します。
サブフォルダの内容も表示する	チェックすると、フォルダに含まれる全てのサブフォルダのログが残ります。チェックをはずすと、フォルダのログのみが残ります。
実行のコマンドライン引数を表示する	チェックすると、実行ログの実行パラメータを記録します。

「除外」(ファイル操作) ログに残したくないファイル操作は除外リストに追加します。

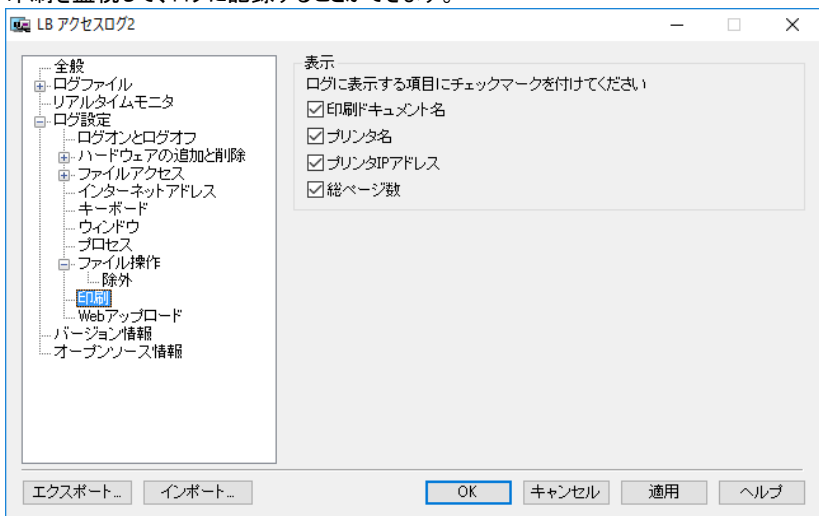


< 除外の説明 >

追加	ログ取得から除外したいファイル操作を設定する場合には「追加」をクリックして設定します。 ※ 初期設定で除外指定されているフォルダーを除外から削除しないようにしてください。削除するとログのサイズが非常に大きなものとなります。
プロパティ	除外指定したファイル・フォルダーの情報を表示します。
削除	選択した除外リストの設定を削除します。

第9節 印刷

印刷を監視して、ログに記録することができます。



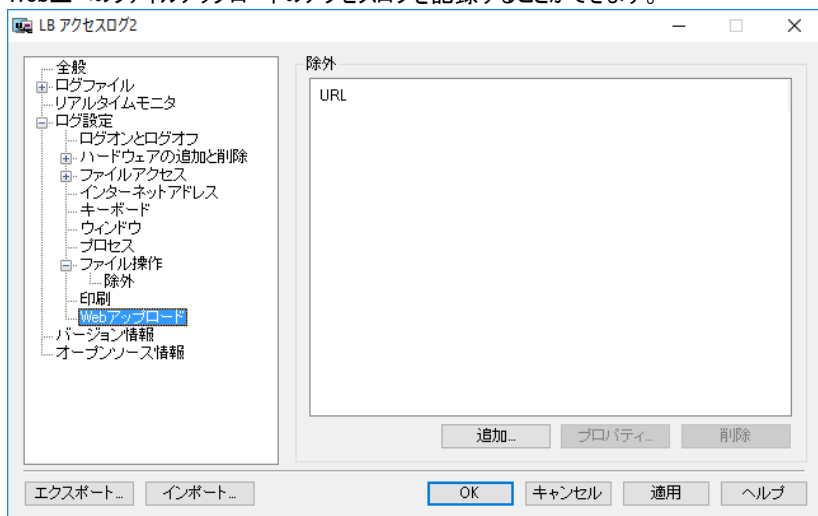
<設定項目>

印刷ドキュメント名	印刷されたドキュメント名を記録します。
プリンタ名	印刷に使用されたプリンタ名を記録します。
プリンタ IP アドレス	ネットワークプリンタの IP アドレスを記録します。
総ページ数	印刷ドキュメントのページ数を記録します。

※ 共有プリンタ(他の PC に接続したプリンタ)を使用した印刷には対応しておりません。

第10節 Webアップロード

Web上へのファイルアップロードのアクセスログを記録することができます。



<設定項目>

追加	ログ取得から除外したい URL を設定する場合には「追加」をクリックして URL を追加します。
プロパティ	除外リストの URL 情報を表示します。
削除	除外リストの設定を削除します。

※ Internet Explorer 以外のブラウザを使用したのアップロードには対応していません。

使用許諾契約書

当製品をご使用前に、下記のライセンス契約書を必ずお読みください。本使用許諾契約書(以下「本契約」といいます)は、下記に示されたライフポート ソフトウェア製品(以下「ソフトウェア製品」といいます)に関してお客様(以下「甲」といいます)と株式会社ライフポート(以下「乙」といいます)との間に締結される契約書です。ソフトウェア製品を開封、インストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約の条項に同意し、契約が成立したものとします。本契約の条項に同意されない場合、株式会社ライフポートは、お客様にソフトウェア製品のインストール、使用または複製のいずれも許諾できませんので、予めご了承ください。

第1条 定義

- ソフトウェア製品
本契約に基づき、乙が甲に提供するプログラムおよび関連資料を包括していい、改良版のソフトウェア製品が提供された場合には、当該改良版のソフトウェア製品をいう。
- プログラム
機械読取可能な形式で提供されるデータ処理プログラムをいう。
- 関連資料
プログラム以外の資料で、乙がプログラムの使用に関連して提供する、乙指定の資料をいう。

第2条 契約の目的

乙は甲に対しソフトウェア製品を非独占的に使用する譲渡不能な権利を許諾する。

第3条 契約期間

本契約は、本契約成立時から、甲または乙が本契約に従い解約するまで存続する。

第4条 使用权

- 甲は、プログラムをライセンスに付き1台のコンピュータで使用することができる。また、印刷物の形で提供されたソフトウェア製品を本契約の目的に従って使用することができる。
- 甲は、本契約に基づく使用权につき再使用权を設定し、またはソフトウェア製品もしくはその複製物を第三者に譲渡、転貸もしくは占有の移転をしてはならない。ただし、甲の管理の下で甲のためにソフトウェア製品を第三者に使用させる場合はこの限りでなく、甲の使用とみなすものとする。
- 甲がマルチライセンスパックを購入した場合、本契約以外の書面(パッケージ等)において指定される許諾数だけのコンピュータにインストールできる。

第5条 複製権

甲は、ソフトウェア製品の一部または全部をバックアップコピー作成のためにのみ、複製及び複写することができる。甲は上記の目的以外のために、ソフトウェア製品の一部または全部を、メディアを問わず、転写、複製または複写してはならない。

第6条 危険負担

納入前に生じたソフトウェア製品および記録媒体の喪失または損傷は、甲の責に帰すべきものを除き乙の負担とし、納入以後に生じたこれらの損害は乙の責に帰すべきものを除き甲の負担とする。

第7条 保証

- ソフトウェア製品の媒体及び関連資料に、物理的欠陥がある場合、甲がソフトウェア製品を購入してから90日間に限り、無償で乙より交換を受けることができる。
- 乙は、ソフトウェア製品が甲の特定の使用目的に適合することを保証するものではない。また、前項において明示する場合を除き、本ソフトウェア及びサポートサービスに関して一切の保証を行わないものとする。
- 前各項の定めは、本契約に基づく法律上の瑕疵担保責任を含む、乙の保証責任のすべてを指定したものである。

第8条 乙の責任および責任の制限

- プログラムの不稼働を含む稼働不良のすべての場合において、乙の責任は誤りの訂正に合理的な努力を尽すことに限られるものとする。
- 法律上の請求の原因の種類を問わず、乙は、法律上許容される最大限において、本ソフトウェア製品の使用もしくは使用不能、サポートサービスの提供もしくは提供不能またはその他本契約書に関して生じる特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、またはその他の一切の

損害（逸失利益、機密情報もしくはその他の情報の喪失、事業の中断、人身傷害、プライバシーの喪失、誠実義務または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、過失、またはその他の金銭的損失を含むがこれらに限定されない）に関しては、乙の過誤、不法行為（過失を含む）、無過失責任、契約違反または保証違反の場合であっても、一切責任を負わないものとする。たとえ、乙がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様である。

3. 本ソフトウェア又はサポートサービスに起因して、甲、もしくはその他の第三者に生じた結果的損害、付随的損害及び逸失利益に関して、乙は一切の責任を負わないものとする。本契約のもとで、理由の如何を問わず、乙が甲、又はその他の第三者に対して負担する責任の総額は、損害の原因となった本ソフトウェアに対して本契約のもとで甲が実際に乙へ支払った対価の100%を上限とする。

第9条 著作権等の侵害に関する損害賠償責任

1. ソフトウェア製品の使用が、第三者の著作権または工業所有権等の知的所有権を侵害したという理由で、甲が第三者より請求を受けた場合には、甲が次の各号所定のすべての要件を満たす場合には、乙の責任と費用負担で、当該請求を処理解決するものとし、甲に一切の損害を及ぼさないものとする。
 - (1) 甲が第三者から請求を受けた日から速やかに、乙に対し請求の事実および内容を知ること。
 - (2) 甲が第三者との交渉または訴訟の遂行に関し、乙に実質的な参加の機会および決定の権限を与え、ならびに必要な援助をすること。
2. 乙は、甲が次の各号の一に該当する場合には、甲に対し前項所定の責任を負わない。
 - (1) 甲が乙提供以外のプログラムと組み合わせ使用したこと起因するとき。

- (2) 甲が本契約に違反してソフトウェア製品を使用したことに起因するとき。

第10条 ソフトウェア製品の変更または改作

甲は、自己の使用のため、必要な場合を除き「乙の許可なく」ソフトウェア製品を変更、または改作してはならない。

第11条 解約および解除

1. 甲は、乙に30日前の書面による通知をして、任意に解約することができる。
2. 甲または乙は、相手方に次の各号に掲げる事由の1が生じたときには、なんらの催告なしに直ちに本契約を解除することができる。
 - (1) 支払いの停止または破産、和議開始、会社更正手続開始、会社整理開始もしくは特別清算開始の申立があったとき。
 - (2) 手形交換所の停止処分を受けたとき。
3. 甲または乙は、本契約に違反すること等相手方の債務不履行が相当期間を定めてした催告後も是正されないときは、本契約を解除することができる。
4. 前各項の適用によりソフトウェア製品の使用権が消滅した場合には、甲は返還または破棄の手続きを行うものとする。

第12条 ソフトウェア製品の返還または破棄

1. 甲は、使用権の消滅後2週間以内にソフトウェア製品およびすべての複製物（変更または改作されたものを含む）を、乙に返還しまたは破棄するものとする。
2. 甲は、前項による返還または破棄と同時に、前項所定の事実を証明する書類を乙に提出する。

第13条 合意管轄

本契約に関し訴訟の必要が生じた場合には、乙本店所在地を管轄する裁判所を専属管轄裁判所とする。

第14条 協議

本契約に関して疑義が生じた場合には、両当事者は信義誠実の原則に従い協議するものとする。

LB アクセスログ 2 利用ガイド

2017 年 9 月 14 日

第 4 版

(非売品)

著作 株式会社ライフポート

発行所 株式会社ライフポート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

©2017 株式会社ライフポート

LB PCの操作をシッカリ記録
アクセスログ2